

アコと人生「千藤^{せんだう}尚志」氏（その1）

取材日：2018年7月19日（木）千葉県・京成稲毛駅前喫茶店に於いて

「アコと人生」は久しぶりの登場です。紹介するのは、昨年の関東アコ伴奏講座に参加された千藤尚志氏で取材は昨年7月です。（今号から2回に分け対談形式で紹介します）

——それではよろしくお願いたします。
まず生まれから伺ってよろしいでしょうか。

岐阜県の恵那市です。

小さいころから親の関係で全国転々としてきました。幼少期は東北の多賀城に移って、それから仙台、中学時代は九州の熊本、親を離れて岐阜の祖父の家で高校時代そして大学は千葉に、就職は君津でした。

——音楽関係との出会いはどういうところでですか

音楽とは関係ない世界で生きてきました。特に青年期になると辛いこととか悲しいことなどいろいろあるじゃないですか、そんな時心を癒してくれる、あるいは逆に元気を与えてくれたのが音楽でした。音楽は素晴らしいと感じました。

特に懐メロは何となく自分にしっくりする感じです。何か日本人の哀愁を感じさせるものがあるんです。

それとシャンソンが好きでした。とにかくいつどこで聞いたかわからないけどアコーディオンの音色が強烈に心にしみこんでいました。そんな折、東京の錦糸町の東武デパートだったかなあ、何気なく入ったらそこにソノシートのレコードが売り場に並んでいて「あ シャンソンだ」とすぐ買いました。

シャンソンには華やかだった昔を懐かしみながら、今の落ちぶれた人生を詩的に語るところになぜかとても惹かれました。

知らない歌手たちが歌っていましたが、その声は心に響きました。それからロシア民謡も大好きです。機会があるたびに歌声喫茶

に行ってロシア民謡を歌いました。

また、その当時“うたごえ運動”が非常に盛んなときでもあり、労働者の歌とか、世の中を変えていく歌とか、商業ベースとは違う世界にも触れることができました。そういうことが知らず知らずのうちに音楽が自分の人生にとってとても大事だなと考えるようになったと思います。

——ソノシートは今でも残っているんですか。

ありますよ。もう何度もすり減るくらい聴きました。郷里の岐阜にあるけれどももったいないからそれをテープにとって今でも持っています。

——アコーディオンとはどこで会おうんですか。

子どものころ仙台にいたから夏休みになると祖父に連れられて、中央西線だったかな、列車の中で白衣を着てアコーディオンを弾いていた傷痍軍人の方を思い出します。

それと大学時代に学生運動が盛んでしたから、学生会の中の執行部室からアコーディオンの音が聞こえました。あの頃はうたごえ運動が盛んでしたからきっと役員の中にもアコーディオンをやっている人がいたんでしょうね。ああいいなあって思いました。

——楽器を買うまでにはまだ、
《就職した公民館にアコーディオンがあった》

私は公民館に就職しました。

丁度公民館にアコーディオン。ひらめきました。そうだ、“みんなの心を一つにまとめるにはアコーディオンだ”と。

毎朝早く公民館に来て、独学で練習始めたんです、だけどちっとも上手にならなくてね、一時期アコサークルにも入っていましたが、途中で自信を無くし結局やめちゃったんです。

その後アコーディオンへの憧れは心の隅に追いやっていたけど、ふっとした機会の度に心が疼きました。そして数十年経ちました。

定年を迎える1年前、市原で「歌声の集い」に誘われて行って見たら心が燃えてしまい、すぐその場でアコーディオンサークルに入りました。それから現在まで続いています。

——そのときに出会ったのがないとうひろおさんのサークルだったんですか。

ないとう先生とはずっと昔、一時期でしたが千葉でアコーディオンサークルに所属していた時に初めてお会いしました。

当時ないとう先生はお忙しい身でしたので、教えていただいたかったのですが果たせませんでした。

それが何と市原のアコーディオンサークルで教えていらして再会。懐かしい出会いがありました。今はないとう先生の下で必死に学習しています。

《定年後の頑張り期間を考える》

当時ないとう先生とお会いした頃先生は73歳でした、すごいバイタリティーで、各地で音楽のご指導をされてご活躍でした。その姿にびっくり、勇気をもらいました。そうだ私も75歳ぐらいまでは頑張ろうと心に決めました。現在は先生の頑張りには引きずられ、更に85歳と目標を引き上げました。当時私の計画はまず5年間で力をつけてそのあとは地域活動できる自分になろうと思いました。(実際はもっと延びましたが)

当初はまだ仕事をしていたこと等もあり、3カ月4カ月経っても1曲が上手く弾けない状態だったからこれはいかんかと焦ったりしました。ただ、過去の自分の反省で中途半端にやると、結局後悔になるからと続ける努力をしました。

《失敗してもいいからやれば勉強になると思った》

練習を続けている私にも時々伴奏を頼まれる機会がありました。事前に先生にも相談し頑張るようにと励ましをいただきました。

私は上手くなったわけではないけれども、頼まれれば「あ、そう、やりましょう」って引き受けました。人の前に出て失敗してもいいからやれば勉強になると思ったんです。三週間後に弾かなくちゃってなると自分でも頑張るんですよ。心に鞭打って。そうして、当日迎えて一生懸命やる。で、それでもよく失敗するんです。でもめげずに頑張りました。

やっていて気付きました。歌声に参加される方たちには上手下手は関係ないんです。ここでは、みんな歌を歌って喜んだり楽しかったですよとか、昔を思い出しましたとかね、そういう言葉を聞いて、「そうだ、俺はこの中でそれなりの役を果たしているんだ、格好付ける必要もないんだっていうことも教えてもらいました。

《続けていたら暗譜で弾ける曲が増えていた》

そのうちに自分でも少しずつ出来るようになってきました。しかも楽譜を見ないで弾くことを。それは先生からも言われているんです。楽譜を見て弾けると思ったら大間違いだと、楽譜を見ないで弾けるぐらいにならないとだめだと言われて。

ただ、悲しいかな少し弾かない時間が続くとどうまく弾けなくなってしまうのです。今努力していることは二カ月前後を一サイクル

として、今まで自分で覚えた曲を必ず弾いて忘れないようにしています。

——ある程度の数の曲が頭の中に入っていればどこへでも行けるじゃないですか。

なんかかやっているという感じです。ただ私のやり方は歌ばかりではなく、間にゲーム、ピンポントークも入れてやります。なぜなら歌が必ずしも好きでない人もいらっしゃる場合もあるからです。歌い疲れる方もいるからです。

それと話が飛びますが、気付いたことがあります。あるとき、三味線やっている方から「あなた楽譜見ないけど頭に入っているんですか」って聞かれたことがありました。「はいそうです」と答えたんです。でも、よくよく考えてみたら頭に入っていないんです、ただ身体が覚えているんですね。なぜなら自分で改めて楽譜を思い出してやろうとしても出来ないんです。それから使う指がちょっと間違えると弾けなくなってしまいます。だから全部身体で流れを覚えているんだと今は思っています。

——前奏から弾きますって始めるときに、この曲は F 調の曲だったとかそういうのは出てくるんですか。

その曲目は C なのか Am なのかとか頭の中にある程度入れています。何度もやっていると覚えてきます。

それと先生から曲は移動ドで覚えるようにと教えられました。移動ドで覚えればどんな曲だって何調だってできるんだよと教えていただきました。そうだなと思って自分で移動ドを一生懸命覚えるようにしています。だから今日もこういうふうにかけて移動ドでスムーズに読めるように訓練しているんですよ。

《覚え方もいろいろと工夫した》

——どこから始まるか最初に出だしがつかめれば、歌詞は暗記してなくても頭の中でメロディーが鳴っているだろうから進んでいくんでしょうね。

はい。それとあとプロの人が、ぱっと、見ないで鍵盤のところに手がいって弾き始めるでしょ、羨ましいなと思うんですよ。あれは出来ないなと思って、で、自分なりに工夫して覚えたのは、ぱっと5本指を楽器におく時に、基準の場所をハ調のドと決め、黒鍵を利用して5本の指がスパッと入るところがある。その感覚を覚えて確実にここが C だってわかる方法です。

我流ですけどすべて自分で工夫するんです。

——千藤さんのようにあちこち出歩いて、だれも助けてくれる人がいない中で自分なりに工夫して何とか身に付けていく覚え方は一番身に付くと思いますよ。しまった、前回やった失敗をまたやっちゃったって思いながら次はこのところは失敗しないようにとそういうことのくり返しでね。

それと歌声で私流のやり方についてですが、全体の流れにゲームとか体操を組み入れた形で工夫しています。

＝次号へ続く＝

(文責：編集部)



移動ドで書かれた譜面を見ながら語る千藤氏